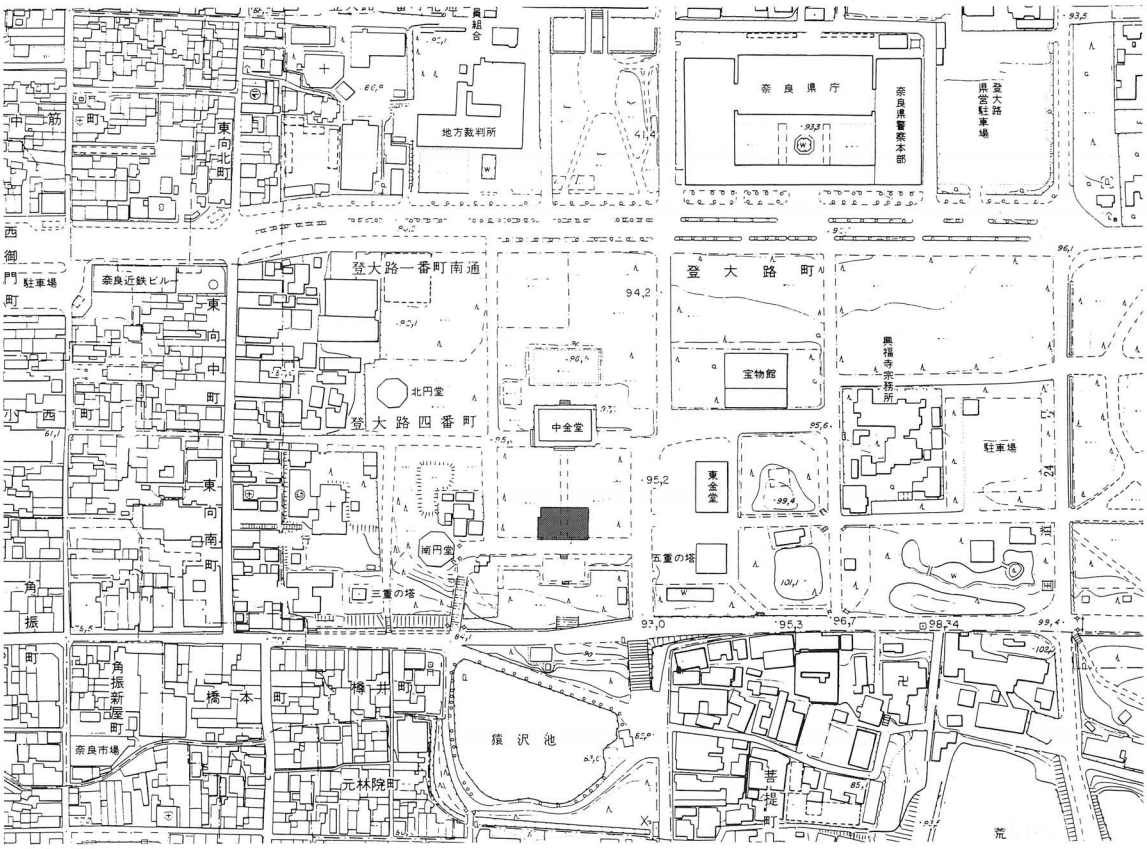
2　調査にいたる経緯

明治以降、興福寺境内は、主として公園また名勝地として今日の姿を整えてきたが、史跡地としてみれば埋もれたままの遺構も多く、往時の伽藍配置を理解することは困難なものとなっている。また、昼夜を問わず人々が往来できるため、国宝建造物等の保存管理上好ましくない点もみられる。

このような観点から、興福寺では、境内の歴史的背景を踏まえつつ、名勝奈良公園西部の核的空間としての姿を失うことなく、また史跡地としても、その本来の価値が顕在化でき、ひいては奈良公園全体の価値を高めることができるよう環境整備を図ることを基本理念とする「興福寺境内整備構想」を策定した（『興福寺境内整備構想』興福寺　平成10年２月10日）。

この構想に基づき、平成10年度から平成19年度までの10年間を第１期整備事業期間として設定し、旧境内主要堂宇地区の中金堂、中門・回廊、南大門、および周辺地区を対象に遺構等の整備をおこなうこととした。失われた建物跡の遺構は、発掘調査により明らかにし、その保存を計るとともに、名勝地としての整備を前提に、築造当時の姿に復元、あるいは規模、配置等の表示を計画している。

本調査は、この整備事業に伴う発掘調査年次計画の第１年次にあたる。調査地は、年次計画案にもとづき、中門全域と東西に取り付く南面回廊の一部を含む東西34ｍ、南北24ｍの816㎡を当初設定した。その後、南面回廊の桁行き柱間を確認するために調査区西側を東西1.5ｍ、南北17ｍの範囲で拡張し、最終的な調査面積は、841.5㎡である。発掘調査は、平成10年10月２日から開始し、平成11年１月21日に終了した。



第２図　興福寺旧境内地と発掘調査地位置図（１:5000）

興福寺境内整備委員会（平成11年３月31日現在）

座　長　鈴木嘉吉　　財団法人文化財建造物保存技術協会理事

委　員（50音順）

青山　茂　　帝塚山短期大学名誉教授
牛川喜幸　　長岡造形大学教授
岡田英男　　奈良大学教授
近藤公夫　　神戸芸術工科大学教授
田中　琢　　奈良国立文化財研究所所長
坪井清足　　財団法人大阪府文化財調査研究センター理事長

興福寺境内発掘調査小委員会

委　員（50音順）

河上邦彦　　奈良県立橿原考古学研究所調査研究部長
菅谷文則　　滋賀県立大学教授
田辺征夫　　奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長
森　郁夫　　帝塚山大学教授
森下恵介　　奈良市教育委員会文化財課係長

オブザーバー

樫平隆行　　奈良県企画部風致保全課主幹
小出次郎　　奈良県公園管理事務所長
関川尚功　　奈良県教育委員会文化財保存課課長補佐
田中哲雄　　文化庁記念物課主任文化財調査官
徳永政道　　奈良県企画部文化観光課長
森川倫秀　　奈良市教育委員会文化財課主幹
安川宣彦　　奈良県教育委員会文化財保存課長
柳雄太郎　　文化庁記念物課主任文化財調査官
吉井　博　　奈良県教育委員会文化財保存課主幹

コンサルタント

真鍋建男　　株式会社空間文化開発機構

興福寺

多川俊映　　興福寺貫首
森谷英俊　　興福寺執事
小西正文　　興福寺庶務部長
薮中五百樹　興福寺境内管理室長